

鴻池家伝来裂の修復研究概報

大阪歴史博物館では、鴻池家伝来裂の調査結果を踏まえ、平成 28 年度以降 3 ヶ年にわたり、共立女子大学家政学部被服平面造形研究室との共同研究によって裂類の修復研究を行った。

修復をおこなう裂類は、14 世紀から 20 世紀にかけて製作された作品である。長年折りたたまれた状態で保存されてきたことに起因する折れや皺、繊維の撚れが生じており、折れ等の箇所から割けなどの重大な損傷を生じかねない状態であった。

その為、加湿処置法による修復によって折れ等を取り除き、本来の平らな状態に安定させた。損傷要因を取り除くことができたことで、今後より安全な状態で保存し、活用することが可能となったといえる。なお、修復方法等について、共立女子大学家政学部被服平面造形研究室作成の修復報告より、一部を抜粋して掲載する。

(中野朋子)

修復作品一覧

年度	報告書 番号	作品名	点数	時代	管理番号 (1)	管理番号 (2)
平成 28 年度 (2016 年度)	7	荒磯緞子	2 点	大：18 ～ 19 世紀 小：18 ～ 19 世紀	古裂 1	⑫
	25	寄金（仕覆裂、紺地）	3 点	16 ～ 17 世紀	古裂 1	①
	38	金茶地双鳥蝶花文風通	1 点	16 ～ 17 世紀	裂 4（古裂箱Ⅰ）	33
	41	金茶地人物鳥文錦	1 点	17 ～ 18 世紀	裂 4（古裂箱Ⅰ）	32
	47	人形手紹巴	2 点	18 ～ 19 世紀	裂 6（古裂箱Ⅰ）	39
	48	紅地人形手金入唐錦	1 点	16 ～ 17 世紀	裂 5（古裂箱Ⅰ）	36
	49	段替人形手紹巴	1 点	17 世紀	裂 6（古裂箱Ⅰ）	35a
	50	段替人形手紹巴	1 点	18 世紀	裂 6（古裂箱Ⅰ）	35b
	64	紺地牡丹唐草文紹巴襦紗	1 点	18 ～ 19 世紀	裂 6（古裂箱Ⅰ）	38
	62	牡丹唐草文紹巴	1 点	18 ～ 19 世紀	裂 6（古裂箱Ⅰ）	45・46・47 ③
	77	古裂（宝尽文、円圏文）	5 点	19 ～ 20 世紀	裂 3（古裂箱Ⅱ）	20B
	67	縞小花文ビロード	1 点	19 世紀	裂 3（古裂箱Ⅰ）	20A ①
	70	紹巴（鳳凰文）	1 点	17 ～ 18 世紀	裂 3（古裂箱Ⅰ）	20A ④
	71	茶地牡丹縞替錦	1 点	18 ～ 19 世紀	裂 3（古裂箱Ⅰ）	20A ⑤
	73	紅地段替牡丹唐草文紹巴	1 点	18 ～ 19 世紀	裂 3（古裂箱Ⅰ）	20A ⑦
	74	笹蔓緞子	1 点	17 ～ 18 世紀	裂 3（古裂箱Ⅰ）	20A ⑧
	75	濃緑地蝶文風通	1 点	18 ～ 19 世紀	裂 3（古裂箱Ⅰ）	20A ⑨
	76	紹巴（青・黄縞）	1 点	18 ～ 19 世紀	裂 3（古裂箱Ⅰ）	20A ⑩

年度	報告書 番号	作品名	点数	時代	管理番号（１）	管理番号（２）
平成 29 年度 (2017)	26	寄金（仕覆裂、緑地）	3 点	16 ～ 17 世紀	古裂 1	①
	9	にしき織（茶地）	1 点	19 世紀	古裂 1	②
	6	蓮池水禽文様金襴（和久田手金襴）	1 点	14 ～ 15 世紀	古裂 1	③
	4	雲龍文銀襴（3 点のうち）	2 点	16 ～ 17 世紀	古裂 1	⑥
	1	薩摩間道（9 点のうち）	1 点	17 世紀	古裂 1	⑦
	2	紹鴎間道（2 点のうち）	1 点	17 世紀	古裂 1	⑨
	3	虎之文古緞子（3 点のうち）	2 点	16 ～ 17 世紀	古裂 1	⑩
	12	四座金襴	1 点	18 ～ 19 世紀	古裂 1	⑪
	14	木綿入間道	3 点	17 ～ 18 世紀	裂 5 37	仕覆裂①
	17	紺地霊芝唐草龍文緞子	3 点	18 ～ 19 世紀	裂 5 37	仕覆裂④
	18	輪違花文綿	3 点	16 ～ 17 世紀	裂 5 37	仕覆裂⑤
	24	玉虫海気（紫）	3 点	17 ～ 18 世紀	裂 5 37	仕覆裂⑩
	27	段替寿字丸文万字文銀入縹珍	1 点	15 ～ 16 世紀	裂 5（古裂箱Ⅰ） 34	34
	35	薄茶地菊桔梗唐草文緞子	2 点	17 世紀	裂 5（古裂箱Ⅰ） 34	34
平成 30 年度 (2018 年度)	10	オランダ木綿	2 点	17 世紀	古裂 1	④
	8	にしき織（赤朱地）	1 点	17 世紀	古裂 1	⑬
	56	格天井更紗	1 点	18 世紀	裂 6（古裂箱Ⅰ）	43 ②
	32	寄金（青緑地、「栗棘庵用」墨書）	1 点	16 ～ 17 世紀	裂 5（古裂箱Ⅰ）	34
	36	金茶地花唐草文紋緞子	2 点	17 世紀	裂 5（古裂箱Ⅰ）	34
	37	金茶地青海波に花文緞子	1 点	17 世紀	裂 5（古裂箱Ⅰ）	34
	33	青鼠地双龍唐草円文緞子	1 点	18 ～ 19 世紀	裂 5（古裂箱Ⅰ）	34
	78	梅に雀図赤綸子地袱紗	1 点	20 世紀	袱紗	1
	79	松竹梅図染抜綸子地袱紗	1 点	20 世紀	袱紗	2
	80	梅雉図刺繍笹蔓頭紋紗地袱紗	1 点	20 世紀	袱紗	3
	81	紺縮緬地丸牡丹染抜袱紗	1 点	20 世紀	袱紗	4
	82	親子亀金描絵赤縮緬袱紗（守中筆）	1 点	20 世紀	袱紗	5
	83	鼠地親子亀金入友禅染袱紗	1 点	20 世紀	袱紗	6
	84	緑地紫地平絹袱紗	1 点	20 世紀	袱紗	7

作業工程（平成 28 年度，29 年度報告書より抜粋、編集した）

1 作品調査

皺を伸ばして寸法計測を行い、損傷個所を確認する。

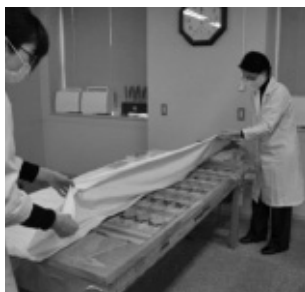


2 加湿

①作品を並べる



②ゴアテックスを掛ける



③濡れタオルを重ねる



④乾燥防止の為ビニールを重ねる



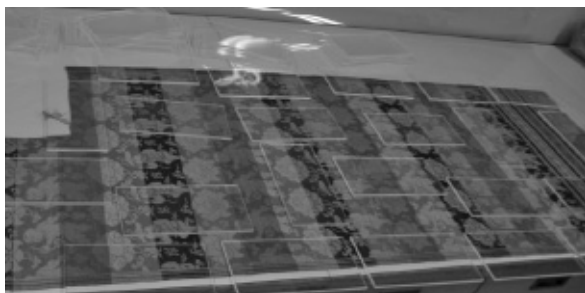
3 整形、押し

皺や折り目を広げ、アクリル板で押さえると同時に皺等に適した重しで押す



4 乾燥

アクリル板の隙間を少しずつ空けながら乾燥させる

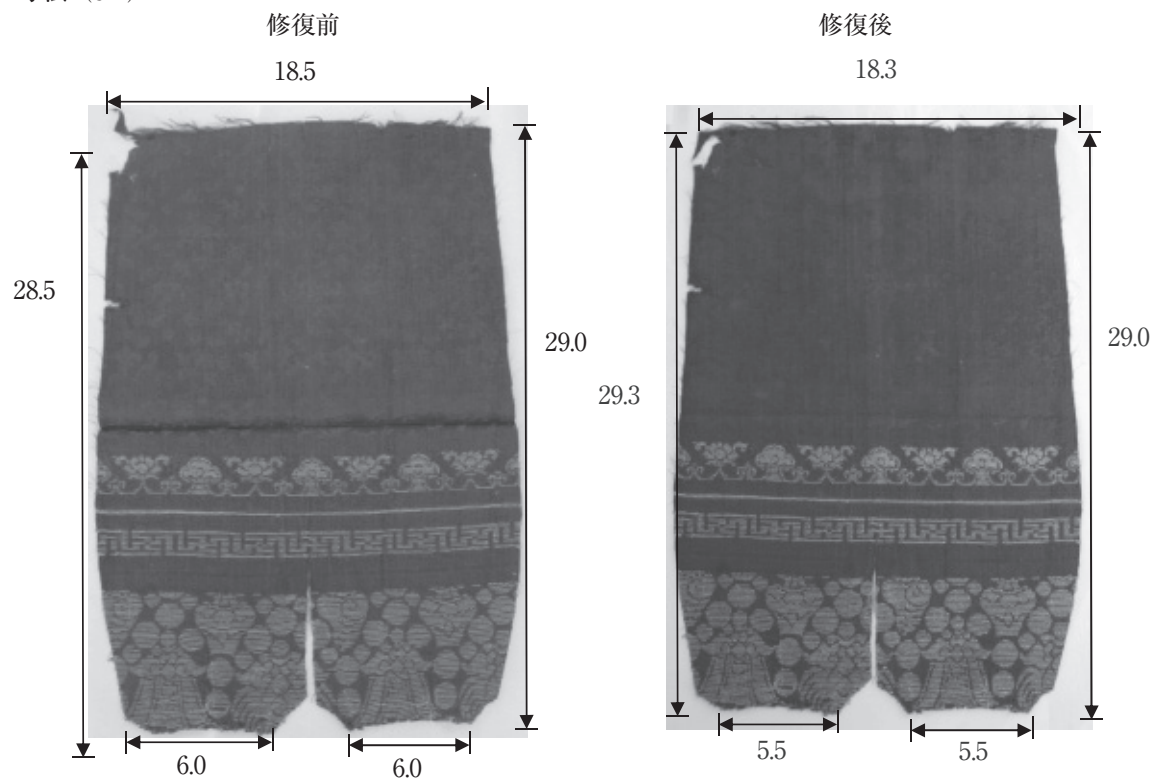


5 修復後調査

寸法調査、修復箇所確認の実施

No.25：仕覆裂 寄金（紺地） 16～17世紀

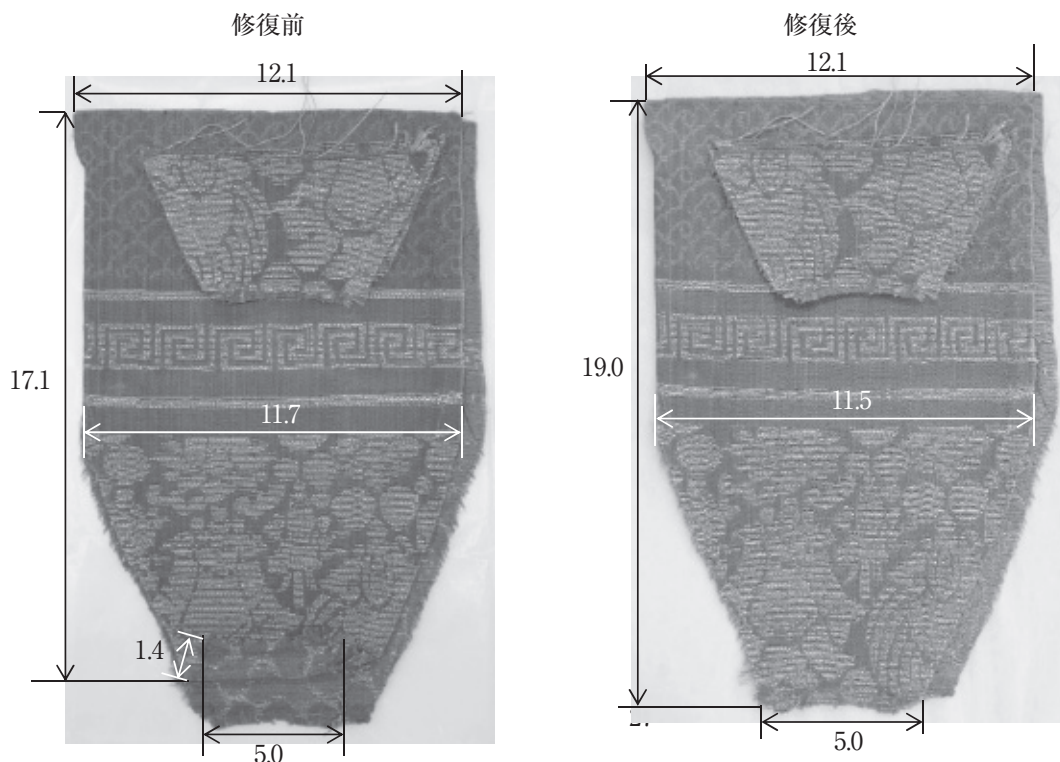
寸法（cm）



修復詳細：加湿 75 分 押し 60 分 乾燥 95 分

No.26：仕覆裂 寄金（緑地） 16～17世紀

寸法（cm）

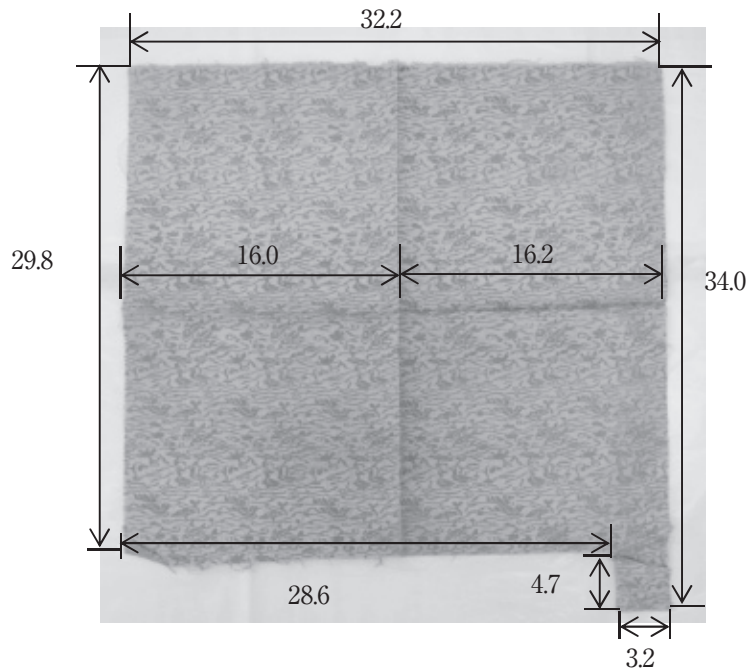


修復詳細：加湿 60 分 押し 24 時間 乾燥 120 分

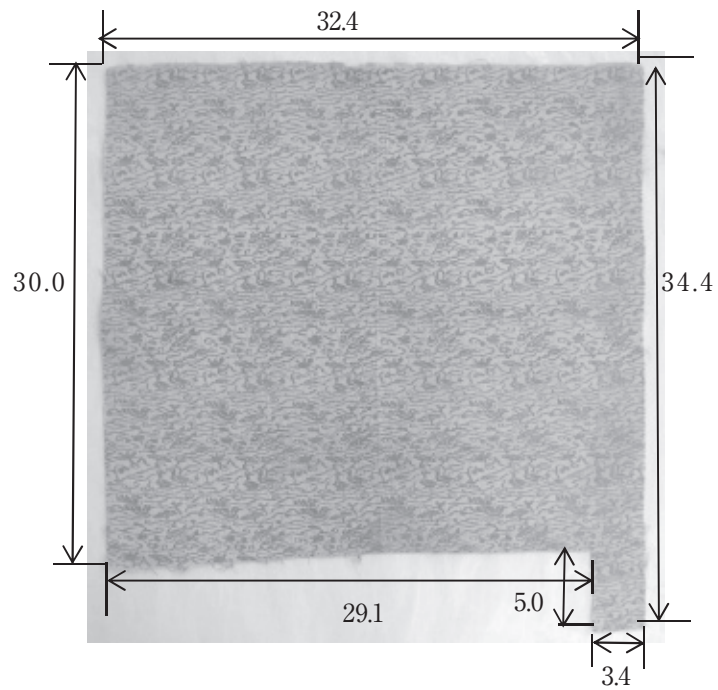
No.6：蓮池水禽文様金襴（和久田手金襴） 14～15世紀

寸法（cm）

修復前



修復後

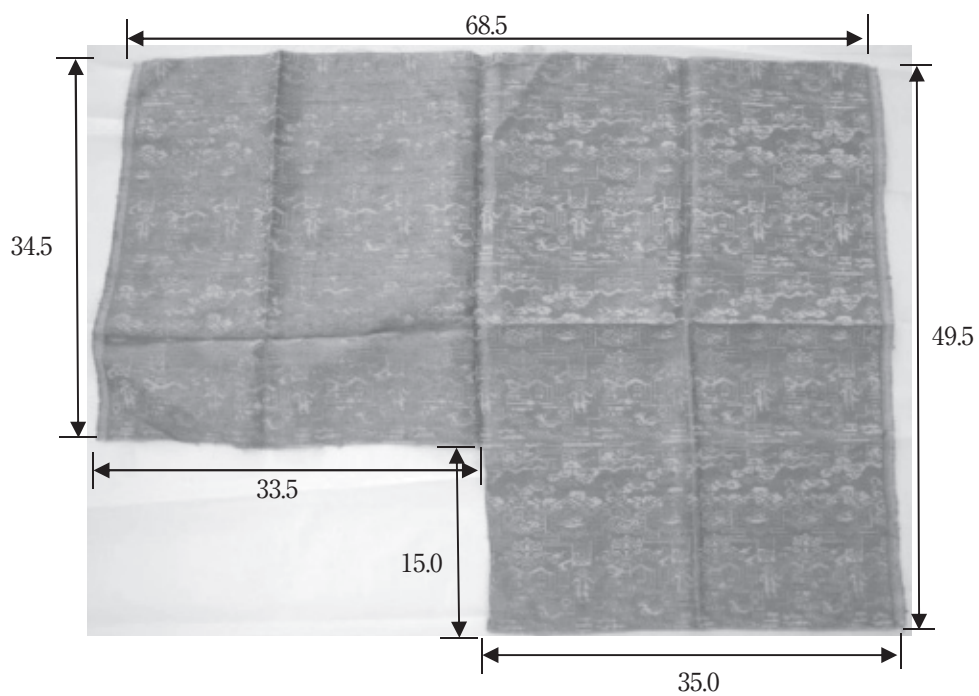


修復詳細：加湿 40 分 押し 5 時間 乾燥 60 分

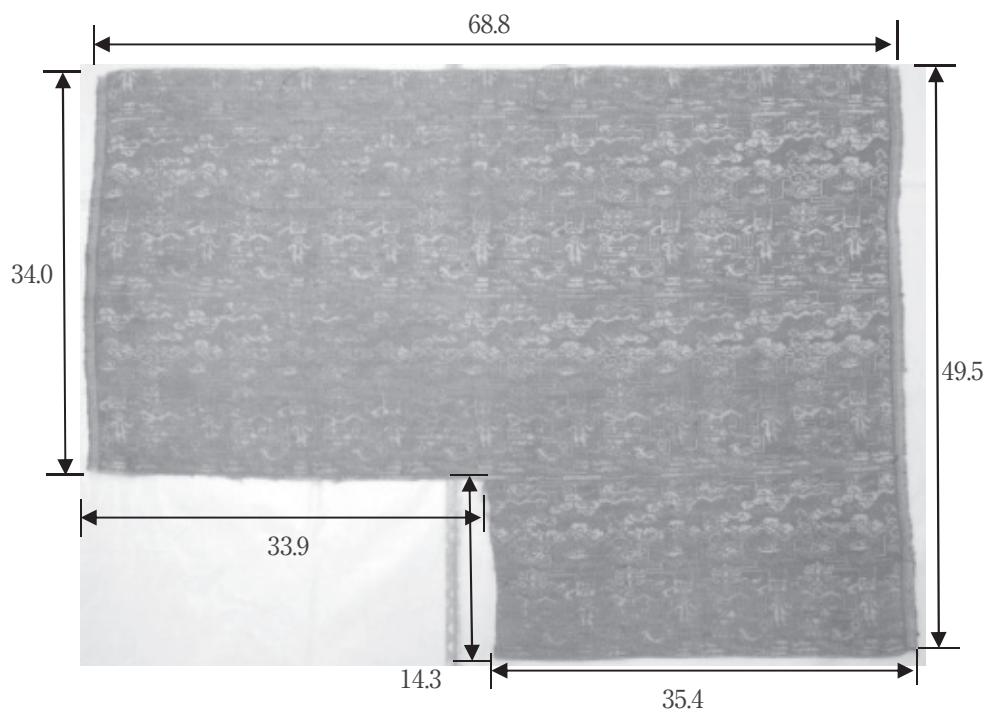
No.41：金茶地人物鳥文錦 17～18 世紀

寸法 (cm)

修復前



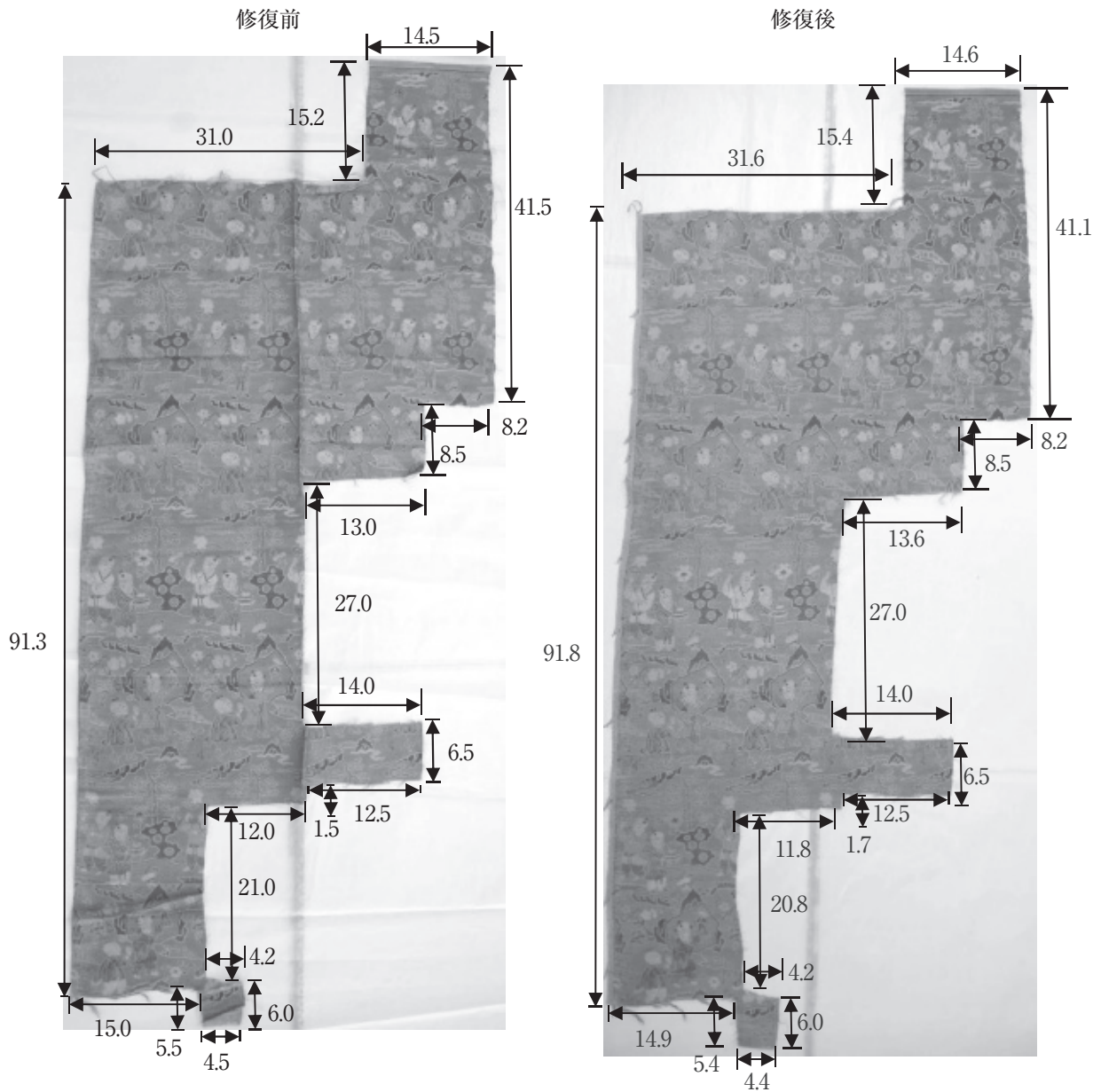
修復後



修復詳細：加湿 60 分 押し 90 分 乾燥 60 分

No.48：紅地人形手金入唐錦 16～17世紀

寸法 (cm)

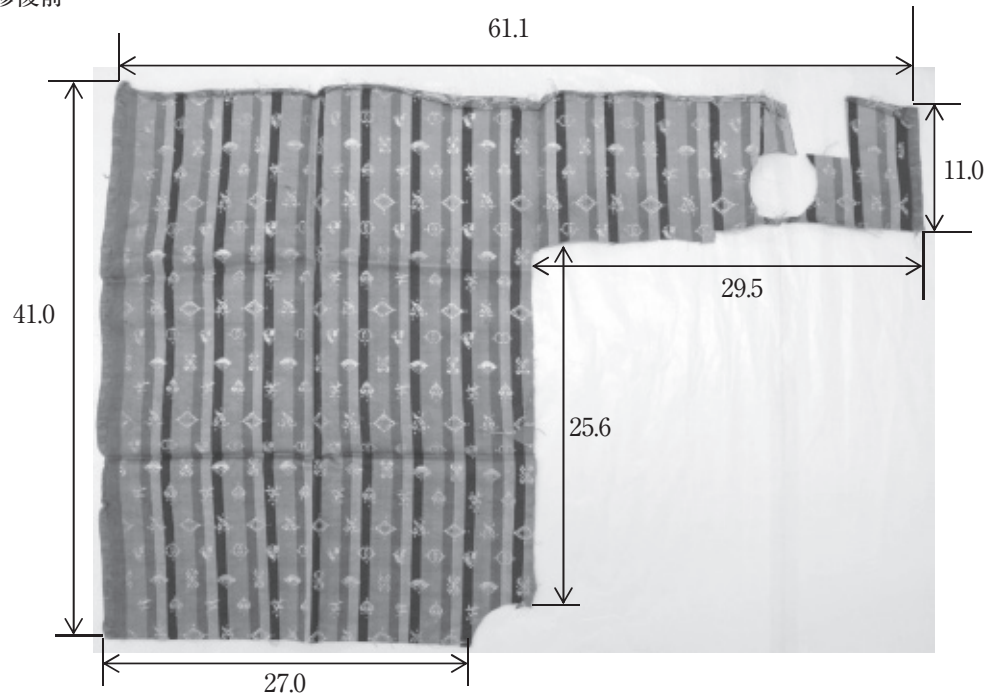


修復詳細：加湿 120 分 押し 270 分 乾燥 120 分

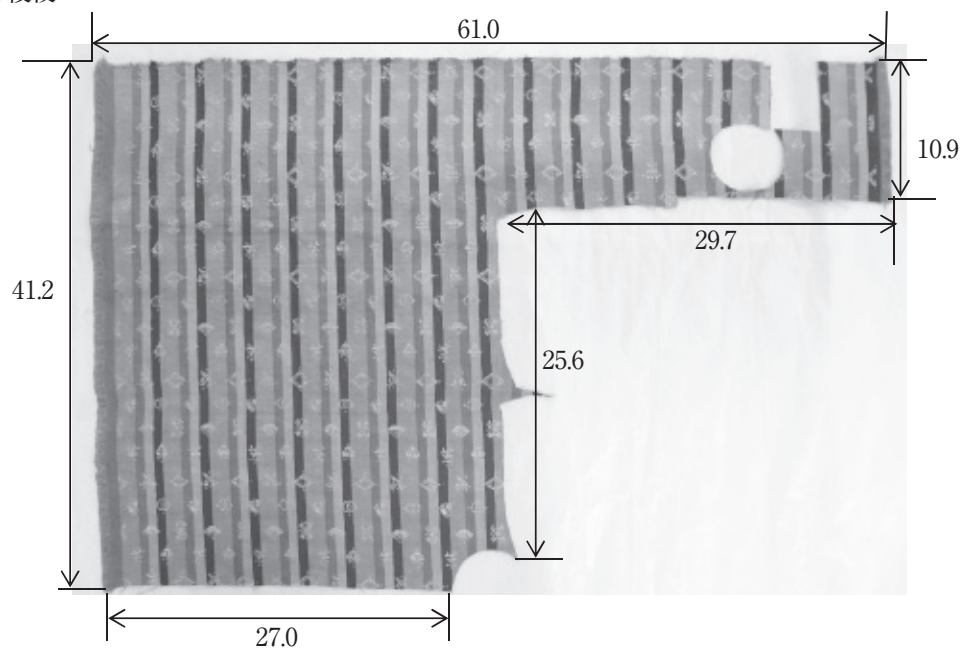
No.12：四座金襴 18～19世紀

寸法 (cm)

修復前



修復後



修復詳細：加湿 80 分 押し 28 時間 乾燥 60 分